

最優秀賞

中学生部門〈問題提起している作品〉

吉野川市立山川中学校1年

山口 凜咲

まさに今

命について、私は考えてみる事になりました。命はかけがえのないものです。でも何かの出来事で突然、消えてしまうこともあります。強いようでとても繊細なものだと思います。例えば「地震」で「火災」で「事故」で「病気」などで、あっという間になくなってしまいう事が本当にあるのです。

その人達は決して、死にたかった訳ではありません。でも死んでしまったのです。「悔しい」「死んでも死にきれない」「どうして私が……」と思っているのではないのでしょうか。

その反面、震災で生き残った人達もいます。両親や家族が死んでしまっただけになっっている子供はどんな気持ちなのでしょうか。また、子供を亡くして自分だけ生き残った親もいることでしょう。その人達の気持ちを考えると胸がいっぱいになります。

しかし、その人達は一人でも生きていかなければならないのです。涙が止めどなくあふれ、生きる意味も無くし、途方に暮れる日々があった後、どうやって生きていくのでしょうか。「人生」とは、ある意味、残酷なものだと思います。

そこで「生きぬく力」が人間には必要なのです。今、自殺を考える人が増えてきています。「生きぬく力」が足りないのではないのでしょうか。その人達は「生きる」という事、「命」という事を浅く考え、気だるく思っているのだと感じます。私も死にたいと思ったことがあったので良く分かります。

私はこの作文で、自分を見つめ直す事ができました。生きたくても死んでしまう人達がいったり、家族を一度に失っても生きなければならぬ人達の事を深く考えました。そして自分の本当の気持ちと向き合い、単純に「死にたい」と思う自分の気持ちの浅はかさに今気付きました。「生きぬく力」を感じた瞬間は、まさに今この時であり、この作文が私にとって自分を正す良いきっかけになりました。